文星觀　中

唐元坊撰

中村俊定文庫
文庫 18
215
2

宮城県仙台図書館

阿仁本城

汐焚

汐焚

竹屋亭の主人久通卿の父君
蓮二房渡白任はさきつころ此の七月そなかれの
時ひと同じく又身もまた分たりぬ誠に
そうそうの世のうつりかはりさまこそ
あり行きまれのこと師走い伝い正俊卿の秋
八月既にすこの高山に入定ちまちまく
二人の愛弟と化して又と逢ふことなきまと

中村俊定文庫

白紙と称して学ぶこと世の凡人と交
わりてなすこと二十年蕉門五指の傳と
継ぎ十論の品目と註解し国古武の
奥儀と再撰して古今の惑を晴らす
一切衆生百遍の乃と訓ずる功あるを通て
速に文景観の稽塵よかられ終り
拙心佛の元とあらんと実に十七年の
じつ二十一年の学てもこれ
終生の記と強し行状の名と西の義

うけて之頼の益圖とと記のまま附與
家よおのて古五十七年の生涯を
書て永く後世と伝えられるとや

于時捻香
偈一句

あふむくもうつむくも柳の作ちゑ

洛下柳後園
百阿佛

各位一句解 前

初月忌に三月 山口
月ゆの涼しさや寺て拝 吉由
来迎の心やは山の松 霊秋
はなのあるじ花をやしめのもと 魏芝
ほれぬるとあるてうつや宮の松 杜吉
梅は咲時ゆふくやちるまうり 范字

初月忌 三月七日 於双林寺 與ぐー

梅は名下一月ふれて拝佛 范字
うふこうつ きしは山内 百河
四方のもみぢの山のまもるれて 山口
猿ちらんの 色とうでむ 魏芝
筆舌盡いてもまむ文不筆 仙歌
案はうもも 敬む宮の井の 芦雅

[illegible] 作角
[illegible] 壺秋
[illegible] 木工
[illegible] 仲志
[illegible] 素丸
[illegible] 知六
[illegible] 杜吾
[illegible] 雅平

滿座名焼香
題樵佛

月もの中[illegible]樵佛 江東 作角
[illegible] 美濃 木工
[illegible] 同 仲志
月もの[illegible] 同 知六
樵佛[illegible] 但馬 仙鈴
[illegible] 同 李仲

世間よりの名もちらでさくら花　庄内　芦鍋
咲も散も此世の為ぞ櫻花　杜吾
さくらよりもちらでさくら仏　山応
あれ聞も朝の名あり櫻花　百河

おなじ時の

世間より所をとりさりて　霜月堂
山の風　草士

拾弦

之生盤子むし一初霜之愛ち是支老と称
未石の恋とあるこいてい方年　さくらかと
まわや宮永八の年亡石して拾ひの山家よ
こうり名をあの流る者をや者と三て乃ぞ
拾小越と道遠しこ者をとりそ我やもよ
拾て去名假名の沿と自在一文徒文操を
ちひて無隠とあるしその余新撰大和詞に我家
るぬ人まての至寶とるり抑予に書本雷寺と
今してはうを宮あるとうる字あり方戯てや我よ
拾敵の二字とあるく者ろ言ろうやまとく

ことしあるひの文れおすよりうるこ病床を
おもひやりてかのうるひ紙をのゝ枝く文の
其素健ゝてかの二章と始りうる我を諸子
又くはなり稿きぬうくをりん二月四日とありよ
口は石苑東羽亭子つゝうる文よ六日坊の金沢と
ちうるを今夕俗夕ちこ文をゝ文をとりかの口は
おの内ゝうるを百ゝ百ゝ百ゝ百ゝ百ゝ百ゝ百ゝ百ゝ
百ゝ百ゝ百ゝ百ゝ百ゝ百ゝ百ゝ百ゝ百ゝ百ゝ百ゝ

ちり蓬花とゝ山ゝ三ゝ花

百丈鎮宰沱有

近江

大津蓮中

四月の月ちゝ海棠の花ゝ　四入
月を入睡ゝ　我笑
春の雨や蓑ゝ蓑ゝ蓑ゝ蓑ゝ　袁立
供や扇ゝ　ち筆　利角

三名二十余年経有某

もゝての傷ゝ　呂品

蓮山の尼二表師はてあれば二月
七日より天竺を行ひ給ふ
ものうれてのちかくしるくなりぬ
再来ありしこと

梅ちり佳年の梅はせ七ゆれ　辻邑 佐角

越前

敦賀連中

仕すとさへいに我に幅財を撰しまを
引ちむのちはよりうれりまとはり
は情に結集のかさしまりしまは風楽を
ちまは雨りてまは俳ゆく行とはひ
是のちはかるめまとうまのちとう
法七日の牌あまはりる　一順

家神とめるをかるみそ家を是　桂下園 東恕
机を富ようくまの　笠舟
きはるきの海も法七日翻て　東吾
まりの月みはあるまを情坊　林風

冷然と魂の天にとどまり　東雲
清いろ　て　ふと　住む　と
枕のもとに　ひろ　て　月の蓋　雨橋
鳴き　仏　と　れ　ま　れ　れ　蘭室
石表　と　表　ぬ　心　寺　の　安　中　家　南里
山　海　と　ま　く　と　ま　れ　ま　く　と　女里杏
白　雲　と　清　ゆ　く　ま　れ　山　行　可伸
遠　家　嬉　い　の　ひ　ま　ん　ま　ま　霞桃

有文

かしこの方行く袴のまれりて
ゆくまくまの松のゆくさ　鹿山
赤くくまれるの行きの宮山　杉市
はるるのの　ま　ハ　ま　ま　む的
大切る　師　ま　の　り　ね　く　ま　く　六詩
あんる　嶺　嶺　心　市　ま　ま　ん　安ま
宵　所　く　脇　と　鱈　ま　か　り　八川
家　郷　の　ま　ま　れ　ま　れ　く　保来

[illegible] 花橘

[illegible] 枇杷

府中亜中

越路より一人の信濃あるじ人を語り
[illegible]
[illegible]

百花臺

[illegible] 尚枝

[illegible] 柳皷

[illegible] 歸的

[illegible] 市柱

[illegible] 羽冠

[illegible] 賀都

[illegible]

[illegible] 岡的

[illegible] 市柱

月むの二つ　寒ろう　弟の病り　柳橋

計書の寸えろは男枝一寸きり

柳ちるやうくひとをのちる　遠近

作の変化と寸伸くてをその弱き

行くまるまこ寒き

む鳥しかくや　佛のくれち　柳鼓

福原遷中

悔言ふ人へ

嶋やーとも三越の侍御とろ銭忘なおてちち

文よ宜い言ふ伝ってもれとあるまるかん

ちちちち京のちちちち不論のちちあって死その

ちちしん宮あかちーよ枝ちちちちちち金の

ちちちる枝ちちち二日枝の枝も銭ちて

分のくとちちちの銭ちとかちちちのちいて

向て二月七日七と稽ちちち俳ち西風のちち

ちきて門下の進かれ金と先ちの無弱の作ちち

ちかんちちと近福の法延を学ちて三階基と附ちんく

前屋ちの塵屋と妙ちて通志の新蹟となくちの

白と集むちちち白恍のあちち柳ちの日下ち

一京ちとちちちちちち

七人の新さく　柳くちちはれ　青子図　二枳

こゝハとものそうこんまうて射ゐて
りわくの書音よこまとちこうの走うゆ
ゐうの故人方の標ちうまうて産業をはり
まうれーう酒よ世との戯をりし茶よ
風雅のこゝろ一ひとりくとをこまを教訓のまの
あとのくゆ方ようこまりめうさうと御陣をと
御ちんとゝ初ひ仏の牌方ようこ一章と
うちうゆ

舞よのうれ物のかこまや茶の　故人方　玄蕃
こうよあちれ多りうや長の面　播遠

名詠

あを袖のあとかうや物の色　房内
沖のよちうけやひ北波　嘯雲
血筋まおくやゆ筋の糸柳　俗爾
よ向うをこやせうて絵ら梅　拓遠
春よかこふ秋ちうゆ仲　仲稜
ちの雪うゆて秋の波　南拓
志のあ形ふうや小おく　拓更

[illegible] 橋の名こそ我 儀遊
山里[illegible]や義の[illegible] 秋ト
[illegible]めむとてや 設橋 志硯
月は昨日[illegible] 世川
月[illegible]の[illegible]橋のちらはは 四[illegible]
[illegible]を[illegible]の[illegible] 契羽
[illegible]れ[illegible] 橋 [illegible] 富[illegible]
[illegible]や[illegible]月 友志

月[illegible]海[illegible]て[illegible] [illegible]
文[illegible]の[illegible]の[illegible] [illegible]文
名[illegible]源[illegible]橋 野[illegible]
[illegible]の[illegible]や経の 和角
橋[illegible]も橋の[illegible]向 [illegible]

[illegible]二月[illegible]
[illegible]の
[illegible]向の[illegible]と
[illegible]と[illegible]

さらに是彦山の稜林に分し給の二三尺に依て
いさゝかの法縁をいとなみ通本の一章をも信受
三千仏一尊をと侍りて解脱よりも向をかうて作
師恩をうち忘れざりしともなるかな也

表一折

一もと葉の露はなをうき木の芽　自庵富 草吹
屋のかり来の暮あちこちなり　虚白
蛇籠にちりしと紙鳶の挿添て　山流
大工彦の扇をかねて小将理　岩芝
名月に萩も紅葉もちりけり　越雪
昌れ隠れてもさる笛の音　之甫

解前擣香

さけいちの合点のまゝや梅ひ佛　山流
文のなれ罕をまもりて春の窓　虚白
月なよ此世をかる朝の立場かな　岩芝
川面やさしく橋を見おろして　之甫

佛のうちかてやとそ[illegible]の[illegible]ゆい　越雪

梅のそらうやこ二月の雪　作は　史隱

三國連中

世のはなれ梅の一ときとそ[illegible]て[illegible]

こそ[illegible]の陰こ[illegible]れ[illegible]ゆ[illegible]

法所の月後[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]やそ[illegible]の梅の[illegible]　作蕉

[illegible]を用[illegible]む[illegible]梅[illegible]山　章珠

[illegible]の[illegible]　梅　[illegible]　以貫

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

小[illegible]あ[illegible]ひ[illegible]と[illegible]の

一[illegible]を[illegible]

[illegible]

紅梅を[illegible]　慰角

[illegible]　作竹

横橋雲外で あれ世の色の山　可圭
月もの寒さ小なるを哀　恕風
こゝの石 雨りや 小雨 雲霧　等卿
文意の書 高 柳の月　一流
さめて 雨 蓮の実 柳 哀　源愛
師の陰を 雨 柳 柳 柳　胡全
出 雨れ 淫 梁 の 人 か 雨 雨　橋東

金津建中

一順

雨 雨 雨 柳 い 敬 雨 雨　東也
山 雨 雨 雨 雨 雨 雨 雨 雨　琴雨
春入の 雨 雨 雨 雨 雨 雨　我見
雨 雨 雨 雨 雨 雨 雨 雨　訓之
雨 雨 れ 柳 雨 い 雨 雨 雨 雨　曲思
琴 雨 雨 ふ を 雨 て ゆ く　風家
一 雨 雨 二 雨 一 雨 雨 雨 雨 雨 雨　乗離

[illegible]　巴峯
[illegible]　和仙
[illegible]　瀟湘
[illegible]　山谷
[illegible]　杜甫

玄猿　題壁

[illegible]　琴水

[illegible]　巴峯
[illegible]　和仙
[illegible]　玄猿
[illegible]　曲阿
[illegible]　我見
[illegible]　蘭泉
[illegible]　瀟湘
[illegible]　訓之

加賀

大正寺連中

注中よりいとゝ柳のめをぬ　里楊
ゆてのびたる新　廉吹
新の梅よりゆかしき　素堂
ふしさの字やうもいかに　細松
風中をれてゆるる京の心に　南芝
ぬるるまの秋をちらるる　松石

寄生蝶
かゝれるとあるい梅の枝　山中　桃妖

本吉連中

一ぢ
ふをゆて柳よりあいたる　李睡
雲をとゝ一枝の桜　若椎
青入の日数をうへ京へ　二京
そゝいとゆゝしく書　李邑

安房の国の海辺の里を詠ける　雄貝

月出でぬれば海人とりあつめる　刺足

今はの泉の言葉の水なれば　蘭都

山の井の水に用ゐる人なれば　笠石

高砂に栄えて居ると云ふ　机小

鶴の鳴く百年かけて　百壷

青柳の糸に曲げ　餘の言　古的

取り上げて物の数　千代

吾嬬

詠まれて山の上に立て、大根　柳風

嬬恋と問ひて居て詠むで物の数　馬堆

なりくちるまで物の数　松仙女　千代

寶永の比り一立師匠にて小国行脚の時

内井戸と申て名所に不云の云と

云ふ所に蓮内の秘訣と伝へ在来の

日本はところ先生年々熟の花活を
論ずしも此巻の句の募ともそなりけり

あらふて梅しき数やさいつま　鳳棠下 山濤

梅の館家へ見もあき梅の花　橘甫

さきのゆもえへうむの志をの中　三草

あさるかく人も徳にかられけり　八子

梅に啼嘯に寒さや梅の果　丈衣

跡ろ流の雲存も梅に知れけり　山些

梅に旅んて由良居を行き知れ　鴨成

春寒て行く里のきしきれ　百色

梅散てさしの詩しあ浮ぬ月　山文

ちり果てあとの月や梅の花　里石

果て吟の庵に似しあに知れ家　青梨

梅ちりぬうく匂ひもなし塚の人　素秋

梅は庵の知れに嘆れあれけり　友達

故人とも寝て悲しと梅ちりぬ　非亮

そこに咲く堪もきふのそむけれ　和菊

はてしなきものやけさの春 岡島

梅ゝ咲きそめあるかけかな 浙青

あらしてふふちいの春され 住云

山路のひもうめくさられ 小春

むらて時の春ものこ 紀久

酢加減とるしんしてはちぬ 庵柳

三つ物 探題

文意

文意のうれやはなは降了 市虎

月とむとるはひそのね 女 珈凉

東橋笠明日の雨さの細ケて 手哉

硯

言の葉もなちの硯の塵なる 手哉

梅ゝまねくはの梅ゝ戸 市虎

硯ゝ墨と案ゝ硯 珈凉

雪

三雪のあしあとやたつぬ　如嘯

庭竹と雑木の一ぱい雪　半哉

雪さのあらしも馬も寒て　市虎

一順

雪もはの仲の折れ音　素廷

通るぬくい有馬　山濤

雪の夜明りかれ山あり　如角

路の清よ　雪板の音　雪乃

一世を繋うら行の路と人　丈志

清のうるしや十八夕　市虎

恋い素と談る雪の月　観水

おもて通て伝ちの雪　沂雪

通るもさいの行る霜月　半哉

法寺の掃除深ぬる　庵柳

[illegible] 俊元
[illegible] 八子
あぢさゐ咲る小庵の法けい 知足
[illegible]れの[illegible]山を細入 橋南
[illegible]なむ[illegible]の[illegible] 兆亮
[illegible]和の[illegible]て[illegible]の[illegible] 賀先
[illegible]て[illegible]て[illegible]て[illegible]て[illegible] 三笑
[illegible]小[illegible]酒[illegible]し 山堂

月の[illegible]時[illegible]ゝ[illegible]掃[illegible]一 希周
[illegible]紙一[illegible]て[illegible]方[illegible] 貞之
咲[illegible]て[illegible]むく[illegible]の[illegible] 伯鶴
独活の[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]人[illegible] 楚雀
[illegible]入と[illegible]ゝ[illegible]ふ[illegible]不[illegible]く 素秋
服[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible] 高夏
[illegible]世を[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible] 幾弥
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]五月[illegible] 枕芽

淀川連中

春山のむらさきくもり　蘇奇
陸わたる鶴とそくてや旅なのり　路門
雲の峯此所ありやそれ京さき内　信爾
和月や雪の名ひとしらず　桃室

追悼

秋敬て春日湯ゑのつゆわれ水　風曲

能登

秋のむ星を彩てる新よりも　月彩
歌わすや山を彩る富士の色　和前
春もいまあけて物ゑそ人春　牧九
ものはやそ山の名ゑ所り　春白
ゆくさうくいそ物ゑ月は　史貞
春をとそふ所やそ言て峠　碩素

七尾連中

清てい雪の形えの花のあり　也翠
義笠のゆいるるをみるちまい　琴右
ちる梅いろをる園とかくくり　太李
二枝の青やぬのをるを小雪の中　長雨
縄をりのをれて月あるの重る　有己
むをもおしむ月のをるめる　玄峰

同一家連中

青園の白れをるを梅の道　欣想

をを新いをるをるを二月る　露懸
為ををの咲をるを梅のむ　恨宛
傳ち雪雪を咲くくをる　听蜀
ちく蕾の通をるぬ行雪心　今芽
雪本のむのをくく小雪　巴亮
ををを雪あ梅の月のかをる　車餘
雪育咲をと梅でうれ雪　信負
梅を雪ををるれをり　遅睡

清涼寺釋迦堂の花の色　止望

越中

石動道中

薬山寺師の寺ふくとそこの紙ゝ寂たり
ゆゝしかりけるを嚴見侍りしに
その袁とかゝる廻計寺者ゝ寺の
四地ゝくゝの勢ゝ

うゝれゝう詞のもゝ孫ゝ濟く　櫟原下方堅

秋の言やこゝれてやゝ方ゝ侍　鳳吹
ゝゝ言ゝゝゝゝゝゝゝ　走河
月ゝゝゝゝゝゝゝ国ゝ濟了　可由
絢ゝゝゝゝゝゝゝ　甘掬
体枝ゝゝゝゝゝゝ　壺汀
ゝゝゝゝゝゝゝ　桂芝
むゝゝゝゝゝゝゝ　岐文
ゝゝゝゝゝゝゝ　柳聽

うらいかもの浦のうらさびてちかき　友邦
百石の谷の下松の涅槃像　桃宇
むらさきとてはなはあるむの色　玉甫
松ふかみ清るいくやの宮　素邑
このむらはみなさいやの宮　巴水
文殊の寺むらさき川　路尺
高代の鳥と表の一京とはなれて紙鳶と時雨と
七夕祭り一一鈴しの形見とうりて
拂ふとも松の内はやまの色の色　青鶴

あの丞仏の解説を
青葉を重ねて
いまはしらこの行末曉ふ　眉象

許生青和月に於法浦堂へさそ長安の
いとなくて集会をもて方四を手あり一和て
くくの発句を撰一篇を文和尚仏の
縁起の跡を後て称徳敬意をもて
こゝの寺を翠鋼報舎の発句をもて
年末新年の序としるしるす

一順

こゝもれ松ふかくもてて故郷の　一葉
みちを終を小ゝ　野ゝ　古鶴

[illegible] 風吹
[illegible] 寺掛
[illegible] 壺汀
[illegible] 波文
[illegible] 月 [illegible]
[illegible] 可由
[illegible] 柳蹠
[illegible] 春鶴

[illegible] 眉象
[illegible] 桂芝
[illegible] 舞従
[illegible] 秋峯

入江のむこ [illegible] 舞従
[illegible] 寺川

[illegible] の [illegible] 鵜寺
[illegible] 己千
[illegible] 可有
[illegible] 吏員
[illegible] 国南
[illegible] 一本
[illegible] 五方

表

福文遺中

[illegible] 左書
[illegible] 巴珍
[illegible] 紙
[illegible] 語文
[illegible] 乙言
[illegible] 加奈

奉梅宗仏の遷化

ちりぬの行をと後ゝ梅の花　巴丘

あてはけ名を有をあ梅の花　安房寺僧　青吹

雲山寺師の月言の夕の言と言をきく行をと
中てをく文墨釈を心得て解おゝ一言と言うの

月言のさゝいあ一あ不仏　吉秋

ゆし山しけの仏のあれ　宣

雅好を笑

俳の法師を癒を梅の花　十伝

七人をけるあしも梅月　宮尉

ちをは法をあをを仏を和　宇木

言ひをゆ一ゝをあ世あ　祝谷

ゆ了を向雨を碑修山　竹泉

言向や言のあをの竹あり　射柳

新あゝ言をを言をを世仏　自省

[illegible] 素圓

[illegible] 右尹

[illegible] 以中

[illegible] 福井 宏遊

一座表

[illegible] 青林

[illegible] 定之

[illegible] 以中

[illegible] 実尉

[illegible] 字本

[illegible] 和谷

[illegible] 右尹

[illegible] 竹系

表谷

[illegible] 林紅

弁波道中

[illegible]の法の[illegible]　夕兆
[illegible]　乙子
[illegible]の[illegible]　琴象
[illegible]の[illegible]十文字　胃酒
[illegible]の[illegible]　東至
[illegible]の[illegible]　九羊
一[illegible]　九芸

[illegible]　一

[illegible]の[illegible]　萩人
[illegible]　錦水
[illegible]　俚鳳
[illegible]　兵集
[illegible]　呂仲
[illegible]　[illegible]
[illegible]　巴[illegible]
[illegible]　素曼

題

深閑今宵誰敲戸　吏全

春の山はとかすかあふぎ　雖和

山ぶきの花ちらしつゝ　兩園

夕雨　ちるむ　青ちるねる　紅庭

山窓しこたりて夜の月　真柳

結ぶの花　貴ちるく　芳濤

生る花ちるて小枝ちるの月　雲兆

春酒の酔　行ちるちる　杞言

こゝ四

ちるくを梅咲ちるて　琵健

指とれるれ春雨　之士

春入い雲梅の ちいて　蘭亜

ちるちるのくく春よ　洲本

指分ちるるのちる　紀蒙

やゞ暮ちるしむ春風へ　星嶺

たかからんの月もこそ松ひらに　其青

[illegible]　沈杜

秀誠

あらし世のうきやまの名　夕兆

むとせつくるの[illegible]せの[illegible]　紅紅

鶯[illegible]しも向いてもこの花　九羊

[illegible]むやあ[illegible]　此本

うしろ[illegible]の[illegible]　呂仲

表紙の硯に行きてもこの[illegible]　紀方

[illegible]

[illegible]　張健

[illegible]

指とわれ[illegible]　之士

[illegible]入い[illegible]の[illegible]　蘭亞

[illegible]　冊本

[illegible]　紙裳

[illegible]　里秀

たかからぬの月もさすらむ松むしろ　其青
花もさそはれてまつ　沈枝

春詠

あらしさのさそふやまちの雨　夕兆
むとせかのくらはせの藤ゆ　鶴紅
鶯なりしを向いてやすらむ梅の花　九羊
なりむやあるえうつて　此本
うしをやあはれ春の鶯　呂仙

孫のさそはれの鶯やあらむ　元士
七種や怪の七日はれを向　賈雨
ふるさとやあれ怪の名　僅鳳
幻やたくいふの柳うけ　巴芳
ぬ月を春のあるむしろ世や　笙藻
糸をれてをやあ一部の集　紅庭
清て名しあるはやえるまちの雪　鶴袁
雄峰て春屋を遠をむしろ　其柳

借をる侏てのえのこや春の宿　乙子

ちる梅の香もち流る世の饒れ　琴泉

摘菜も此川を越るの面影　鳳集

山吹や流ゝ影を汲こぼれ　東至

落て咲や梅ちる風の跡の露　洞枝

此猪も寒き日とふり春の草　春曙

形つくむ夢くの顔やおぼろ月　甚青

身よりある袖さへ照し春の雁　少花

花梅の二季もち咲かゝるに　里露

朱縄窓の絵やおぼろ月　雨園

草むらるとも見あるまゝの宿　蘭芷

京をとよむ堤も一あきむけに　琢石

こる墨画巾

青ちる枝ゆる春に良きもあり　至超

雲のこわれ庵ま影　鉄石

餘緩の手ふく日樽に滅る乙て　二杉

春雨

春のあめ降るとはなれて聞ぬれば　風志

ふるさとを春雨の空　乙鳥

雨人のうけてさかりを梅ぬれ　如雪

ぬれて見る梅の花の空　仙志

春雨

雨のうちに木末の花の一字　如雪

水見連中

春雨

春雨降るかぶくるるれば　杜亮

たちの時て水眠る雪の音　千林

四うちかて解ぬ西の空ぬれて　光刀

春雨連中

春雨ぬれかてて梅のうれば　青白

根息の笑ひやの行ちの月　多山

雪の果ぬおもひ初る小夜ぬれ　東宇

さぬきよりぬれ小樽ぬ雪のうち　舟雪

[illegible]梅の[illegible]　業之
[illegible]の[illegible]　星桃

千句興行　奥津達中

表一　九月

[illegible]師[illegible]月
[illegible]の[illegible]　侍義

表二

[illegible]の[illegible]　蘭枝
[illegible]の[illegible]の[illegible]代　[illegible]
[illegible]　松宇
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]布
[illegible]の[illegible]　徒壽
[illegible]の[illegible]　蘇独

二十五

[illegible]の[illegible]の[illegible]の流れ　方教

[illegible]の[illegible]ふしに[illegible]のもとの　山看

二十六

[illegible]世と[illegible]　文凡

花の[illegible]の[illegible]　京竹

二十七

[illegible]の[illegible]の[illegible]　枝中

[illegible][illegible]　拾丁

二十八

[illegible]の[illegible]の絵もむり　知十

[illegible][illegible]　紅曲

二十九

[illegible]の竹[illegible]　竹歸

[illegible][illegible]　周塩

三十

[illegible]の[illegible]の[illegible]　俳彦

[illegible][illegible]　十七

追加

板の書のなるところやちかるる

竹に清うたのたれ〳〵渥藝谷　倚彦

委詠

うき龍仰て戸山に来るは　春布

春の夏冬のなれるとなれば　紅此

あれ世ちとくなる竹に　藤神

竹ちとくなるれのるものと　春之

百ふる年やいとりの竹のるれ　春竹

うれ仮ちとあるとうとうとなる　鄭雨

秋ちとう仮の波の竹の月　志布

春のちもしるねるる名所に　支枕

年の仮の竹の仮名の所ちと　衣雨

七地蓮中

一順表　枝中

[illegible]葉のいを捧ずや　松門

[illegible]の[illegible]の[illegible]　柳翼

[illegible]の[illegible]知とて[illegible]て　西河

[illegible]の[illegible]は[illegible]ぬ　[illegible]立

[illegible]て[illegible]ぬ　[illegible]文

月の[illegible]の[illegible]の[illegible]　春園

[illegible]を[illegible]を[illegible]　春文

[illegible]師生[illegible]

[illegible]

[illegible]の白河　枝中

[illegible]解[illegible]　春園

[illegible]の[illegible]の[illegible]　春夫

[illegible]七[illegible]　[illegible]文

[illegible]

義堂に泊る　[illegible]

月いろ世を深くの撓うれ　信柳
文象よ併家のむや柳之月　[illegible]
[illegible]　[illegible]の桜の花　[illegible]
[illegible]　[illegible]の室　[illegible]
[illegible]　[illegible]　林市

[illegible]

[illegible]　此路
[illegible]　永已

泊蓮寺

有尾山

書て消[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]
角[illegible]　[illegible]
[illegible]と[illegible]　[illegible]

[illegible]

今[illegible]とて[illegible]の[illegible]内　園路

[illegible]に氣を[illegible]て月[illegible]　芦情

天竺へ杖の[illegible]て所[illegible]し　杖丁

[illegible]と[illegible]て[illegible]仙窟　渭水

[illegible]けい[illegible]　嘗六

[illegible]て[illegible]　西夕

わ[illegible]の[illegible]　五株

わ[illegible]い[illegible]尾[illegible]　河冷

[illegible]て[illegible]城下　兼林

[illegible]の中[illegible]　星童

[illegible]て[illegible]　桃子

香詠

[illegible]の[illegible]　鳥兮

[illegible]て[illegible]　兼村

[illegible]や[illegible]　実情

[illegible] 麻千
[illegible]の名所や紙の[illegible] 因法
[illegible] 寄恋
[illegible]のこれ夕ゆふ 如情
[illegible]て[illegible]て 山禅
[illegible]の[illegible]星 [illegible]
[illegible]の星 雪六

遠加こうか

[illegible]月の[illegible] 法年
[illegible]の[illegible] 麻千
[illegible] 閑寂

越後

糸魚川連中

[illegible] 九輯
[illegible] 発源

[illegible] 卜筮
[illegible]の神の言や言霊なり 女 [illegible]
[illegible]の名も言霊なり 神の面 字石
くいなすの里の事も此歌に 布沢
事よあるあり も物を言霊に 作蓋
歌の名を [illegible] 神の名 文石
言霊よりは [illegible] 姫石 岐什
師の恵よ 嶺 [illegible] ひの滝 里明

高田連中

[illegible]の言葉の [illegible] 巻軸
清言の言の [illegible] 千舟
物よの言よ [illegible] 竟史
なりなかりて [illegible] 岳材
法華経の [illegible] 仏校

高山寺の遷化と守覚法親王の手紙トを
等り様のままの様板と西行

新深草帝

八月の作なりと云へり　梅の花　葉園
ひとりして　離れて　鶯　一字
毒ちらすと　鶯を　鶯　花心
きりけい　高　花の色　四季
安嘉門院　深草　続く　高野　雲村

注をして　高倉　紅葉　紅葉
高倉　高倉　深草　巴淵
あしもけい　高　怒　千中
書捨て　高　春の　百由
おくれ　秋　今　の　園一
高　まて　行　高　猶　清流
あしもの　の　作　や　梅　山帝
高解　て　高　ありて　成　竹風

雲二十帖　千家地抄の号と賞して
書たくで抄とあるを抄又あるを
中ゆゑ　又ある歳の仏名ゆゑ
抄なり

又源抄　源氏の師のひとり　世柱

抄なるたくの不幸の部書又雲ゆゑ
一年中ゆゑ今又雲と書とたくの

雲抄　日や抄　楽の抄を取　路抄

雲抄中

あるをとを学と取り　師取了　千文
まちをはけるをはけるをはけるを　素滝
中はをうこうを抄を濁の抄の抄　北鳥
文抄を取の抄抄中　美の抄　支流
涅槃をうをを中を抄中　里抄
をうはをを取をはをを抄　抄　其滴
ちを世れ　を　て　ふをを　宮石
ふをくをを抄抄　中　抄　杵千

ちくさんを友とせられし　青支
うしをやすめてをてこを作り　南方
ゆくすゑの手やまれれし雨のまに　瑞翔

加茂遷中

郭子のこと郭やゆゑのものの　素行
子孫をかれしくはあり　孫次
嫌ひ風ふく行くのたりし　百里
八月のまれをやらしの雨の涙　文美

嘆ハ詠ふ人の石やあれこうつまて　女宜仙
燒香の手ふるふ　橋ふる山　路美

紫田遷中

青山青師者まり行くと新宿の
くくふ行きれて

ちるとゆてもるる星もむらり　桜仙
むれをきるを回や越の山　稿　千雅
秋ふ居ふ居の杜丹の雨れ　和風

活て山の顔や晩秋の月　其士

枯草の香よ　あ　蔵れ　可東

月よりこそ風もさびし　柳小　里鮮

活ると惜む新やちる花　仲紅

興行連中

三師たち　初の冬　色心

会作も　冬ゆ　ふ　風蕉

俳諧

夏連中

ゆらぬ月　心の長ちこ　ゆれ　俳諧　寫す

ゆ　ア四十　十有余年　四海の風雅　芭蕉のこ　よ

柳　虚言　言　化の俳諧　を司　て負　言

手む　の二武　弘　蕉門の中　と行　れ

門　頃の図　寫　て百世の記　ふ

一吹

秀言　師の　柳　月　二丁楼　素言

芦の一言　をむ　ふ　南秋

蕉の葉内丁い付くて　露白
高い俗の小ふるふり　和飛
枕れて寒い時ひつて陸奥　二見
高の高ふかふと吹　南田
ぬすてきあの高い高て　紅山
殿の高分をあある雲的　紫雲
よきかふよ抜ふ山めけも奈葉ふ　素仙
高ふ高い高のゆんと流ふぬ　東杖

枕れふ木葉を下を葉のち　知金
高のゆまて流りの星　以月
名月を抜て内高の氣ふふ　李庵
ふ他を葉は〳〵流る枕太高　桃年
古諺　古おふ高ふ略ふ
むの高や高ふ高ふ南北の雲　南秋
ちむの隆ふ抜ふのふふ世氣　李庵
高ふちれ氣名あり抜のむ　和飛

二本ヲ折ヲ注ヲ百たるを　二風
意ヲ水ヲ下ヲ　少年　素化
雲ヲ心ヲ写ヲ　てヲの涅槃ヲ　露白

相川連中

楚撲

野ヲ河ヲ心ヲ鳥ヲ言ヲ
言ヲ山ヲ言ヲ　胡秋
陽ヲの孫ヲ清ヲ柳　下ヲて　銀桂

春ヲ雨ヲ新ヲ　羽柳
行ヲ水ヲ眠ヲ月　秋
お猿ヲ宿ヲ柳ヲ　漬

心羽

露国連中

秋ヲ雪ヲ七ヲ文ヲ　風素
入月ヲ行ヲ雲ヲ　北面

ろのまてのうらを照しや春の宮　一瓢
まちまちにしきたつや船月の揃ひ仏　鳧七

杉田素中

ことし元ろん都に頭く江戸にくだりて
杏郷に帰る之ゆへの再会をなつかしみ
今文来の暮とあて

一順

天黒しい花を二尺の桜の顔　世柳
平のあて何ふ海松に蛤　世瓢

蔦のうれをまろり晴りて　文山
おもしれ俳諧いとよ念起　柳枝
之船よこまりさまの人失数　咋非
裏酒の如来に竹村の市　仙花
もこえでう事まいを済て月の雲　柳山
菊を駆けい鼻に露ちれ　可業
まかしてに神をへを約り皆や　本柳
文のかえもい言伝　世瓦

まち分て夏よ遠ゝ山ゝとなれ　露白
ほれ川ゝ山ゝ雲おいさゝん　和雪

香詠

陽春の陸奥の国ゝ山ゝ雪解　世瓢
桜かの七日やの桜のかゝりとゝ　柳枝
三頻しひゝけゝゝゝゝ帰雁　文角
霞をて下百億年月　昨非
うゝくゝまゝゝゝ桜の面影　也水

あゝるゝし仏ゝゝゝゝの設ける　可葉
仏ゝゝ八日ゝゝゝゝゝゝゝゝ　末柳
ゝゝゝゝ古巣ゝゝゝゝゝ二鳥　露白
ゝゝゝれて世とゝゝゝゝゝゝ　柳氏
古池の跡し山ゝて祥ゝゝゝ　和雪

ゝゝゝて自遠の詩ゝあり略

七年一字の恵とゝゝれゝゝ　伍良
ゝゝゝむの句ゝゝゝゝゝゝゝ　柳亭